

令和6年度 第4回 平戸市総合戦略推進委員会 会 議 録

と き：令和6年12月18日（水）10：00～12：00
ところ：平戸市役所3階会議室ABC

開催日時	令和6年12月18日（水） 10:00～12:00
開催場所	平戸市役所3階会議室ABC
出席委員 (50音順、敬称略)	赤木明子、柿野朋之、木田真弓、坂元洋一郎、田口増巳、辻俊郎、 原田和寛、福田章、松崎利恵子、松田隆也、松山恵美、松山芳弘 (12名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	井芹裕貴、小楠長己、山中兵恵（3名）
事務局 (財務部企画課)	梶田財務部長、藤山企画課長、塚本参事兼政策企画班長、作江主任 主事、平山会計年度任用職員
次第	
1 開会	
2 会長 あいさつ	坂元会長
3 議題 (1)第3期総合戦略策定に係るアンケート調査結果について 委員 事務局	(資料1・2に沿って事務局説明) ●質疑・意見等 アンケート調査結果資料の1ページであるが、今回郵送に加えてLINEなどを使ったり、QRコードを使ったりということでアンケートの対象を広げようと努力をしたと思われるが、残念ながら有効回答率がこれまでに比べて減っている。その辺りはどのように考えているのか。 通常だと回答期限の2週間ほど前に回答の勧奨をするが、今回は全く行っていない。LINEの登録を行っている人は、企業のアカウントや年齢的に対象外のアカウントも含め、2,000件ほどある。郵送した方へ勧奨する代わりにLINEのプッシュ通知で送って、回答をいただいた。郵送分に関しては、勧奨を行っていないため回答率が下がったという

	認識である。
委 員	LINE を使えば、通常は回答が増える。今回は催促をしなかったから減ったということか。
事務局	郵送分については勧奨しなかったから減ったものと思われる。
委 員	郵送分は勧奨を行わなかったから減ったということは理解した。 次に具体的な内容を見ていくと、資料８ページの満足度のところだが、満足度が高いところは住宅の建てやすさ、高齢者が暮らし続けるための環境の良さ、身近な場所での買い物の利便性、居住環境の良さ、安心して暮らすことができる環境の良さ、自然の豊かさ、これは結構高く、これまでの成果が反映されているところかと思うが、逆に、公共交通機関や道路など交通の利便性の高さ、働ける場所の豊富さ、医療を受けるための環境の良さ、というところがやっぱり低いようである。その辺りの原因は何か分析しているのか。
事務局	交通については、西肥バスの減便と民間タクシー事業者の撤退によって利便性が悪くなっている部分がアンケート結果に出ている。医療機関については、子育てをする上で産婦人科がないとだめだということは以前からご意見をいただいている。産婦人科を市内へ持ってくることは難しく、その部分がアンケート結果に表れている。
委 員	資料の調査対象を見て感じたが、人口比率の関係があるだろうが、平戸北部に偏っている印象である。田平も同様。職業も一般職員・正社員の方が約半数で、第一次産業が少ない調査結果が出ているので、市全域で考えるとした場合に偏りがあると感じた。各地で生活する状況は異なると思うので、それぞれの地域に対応した施策を考えなければならない。
事務局	アンケートは無作為抽出で行っている。地区については北部、中

委 員	部、南部、生月、田平、大島の年齢ごと、更に男女を人口で按分して抽出したので、北部・田平が多いのは確かにその通りである。職業については無作為抽出になるので、偏りが出る可能性は非常に高い。職業までは特段整理をしてアンケートをしていないので、多少偏りがあるのは否めないと思う。 資料2の1ページ問7、2ページ問9、4ページ問17で、19歳以下が増えているのは非常にありがたい。19歳以下の回答数が少ないということはあるだろうが、若者の「そう思う」や「ややそう思う」の割合がだいぶ増えている点は非常に良い事だと思う。 その中で3ページの問14、平戸市に住みたいというところで、20歳から29歳だけが令和4年調査から今回は少し下がっている。住みたいと思っている人が減っているというところもあるが、原因は分析しているのか。
事務局	自由記述の意見を見ると、20から29歳というのは恐らく子育て世代であり、働き世代であるので、雇用が少ないとか賃金が安いということがある。それから、平戸市は子育てに関しては結構な公費を使って支援を行っているが、それでも子育てにはお金がかかる。その金銭的な不安が全部相まって、この世代は少し不満とか不満、とあまり良くない結果が出ているのではないかと思われる。おそらくお金の問題とか、雇用とか、仕事の問題とかは、多くの自由記述があったので、その辺りが大きな理由ではないかと考えている。
委 員	若者で一番働き盛りに近づく年齢を一番見ていかなければならないと思う。20から29歳の人達に住みたいと思ってもらわないといけないので、ぜひ次期計画に盛り込んでいただきたいと思います。
委 員	アンケートの中に働く場所が少ないとあるが、働きたい場所がないのではないか。ハローワークでは、具体的に働きやすさをどこに求めているかが把握できていない部分があり、そういったところを分析し

	ていたら教えてほしい。賃金をすぐ上げるのは難しいが、時間を短くするなど働きやすさ、働きたいと思える職場っていうのは一体どういう、皆がどこに着目しているのかをなかなか把握できておらず、そういったところも考えていかなければならない。
事務局	特段対策をしているわけではないが、アンケートの自由記述の中で10時から2時までは働けるのに、その時間の求人はまず無いとか、時間ごとにマッチングできればいいという意見があった。従業員の子育てと企業が緊密に連携し、時間のフレキシブルさよりも子育てに寄り添った企業の取り組みをお願いしたいという自由記述があった。多分その二つが市民の職場が少ないという意見に影響しているかと思う。
委員	そういったところをお伝えできるような形で、求人にちゃんとそういったアピールポイントを書いた方がいいと勧めていきたい。
委員	働き盛りが中心になり、地域によってはそれぞれの課題がある。また、これから地元に残ってもらわなければならない中高生に対して、アンケートの項目を抜粋して実施すれば、将来に活かせる色々なアイデアが出てくるのではないかな。次回なり、どこかの機会で中高生へのアンケートを実施したらよいと思う。
事務局	正式には決めていないが、来年度、中高生へ別事業でアンケートを実施する話をしている。
委員	先ほどハローワークの方も言われたが、女性の働く場所がないだけでなく、時間帯など、自分が希望するところがないというのが本当に多いと感じる。社協でずっと幹部職を探しているようだが、もう3・4年も入って来ない。それから、アンケートを見ると、土日に預ける場所がないとかいう意見もあるが、今度は土日に預ける場合には、保育士さんも例えば週に2日休ませることになるとあと1人とか2人とか増やさなければやっていけない。だから何か賃金が上がることより

委 員	も、今の若い人たちは働きやすく、特に休みやすさや、急な用事にも対応できるとかそういう働き方を求めている人が多いのではないかと思います。そういうところも含めて、若い年齢の方のアンケート、特に 19 歳以下は 7 人しか出ていないということなので、せめて若い方々の分は回答勧奨をして、もう少し多くの意見を聞いてほしいと感じた。 金融機関の目線で話をすると、人口は減少していつているが極端に預金残高が落ちているかというと、実はそんなことはない。下がってきていると感じるのは、事業性融資である。特に設備投資が下がってきている。その理由としては将来を見据えたところで、設備投資をしてもメリットが無いという思いがあるのではないかと。平戸の将来、明るい未来があれば、事業者ももっと設備投資をするということになっていく。県全体でも貸出金の残高は減ってきているが、この平戸地区は全体よりも下がってきている。その辺りをどう変えていくべきかを一緒に考えていかなければならない。その中でアンケートの資料 1 の 2 ページ、回答者の属性年齢のところである。将来を担っていく世代の回答の優先順位をつけるとすれば 39 歳以下。39 歳以下を優先して考えていくことが人口流出も防げて、高齢者も支えていける。そういう切り口で見ていくことも良いと考える。医療体制のところの産婦人科がないというのは平戸市主導で産婦人科医を引っ張ってきて、民間の医療機関に補助金を出して雇ってもらおうとか、何か具体的にそういったことができれば若い方々が安心して子どもを産めるのではないかと思います。私の職場にも世帯持ちの行員がいるが、平戸市はいろいろ手厚い支援があり、住みやすく、この時期に平戸で良かったと言っている。産むところをきちんと整備さえすれば、産んだ後というのは非常に住みやすい町なのだと感じており、その辺も踏まえて、産婦人科医の充実というところを考えてほしいと思う。
事務局	産婦人科医だが、これも全国的に産婦人科は減っており、医師の数がどんどん減ってきているので、現実的にはほぼ無理である。議会等でも、そういった産婦人科誘致の話が出るが、現実的には難しい。で

	できれば一番いいが、それは難しいということで、他のいろんな事業に取り組んでいる。安心出産支援事業で、産婦人科に通うための費用を支援したりして、産婦人科がない分その他のことに手厚い市というところも重要になっている。市が産婦人科を誘致するというのは相当高いハードルであるのが現状である。 市職員含め20代30代、独身女性にも産婦人科のことを聞いたが、総論だとあった方がいいという意見がある。しかし個別に、平戸市に産婦人科があったら、そこで出産するかと聞くと、地元では産みたくない、ちょっと離れたところで産みたいという意見もある。なかなか誘致というのは難しいというのがあって、子育て支援は手厚くやっており、県内でもトップレベル。そのPR等に関しても、不足という言いわければ、それまで。子供・子育てを担当している職員は一生懸命やって、他の自治体がない取り組みをやっているので、そういったところが、先ほど委員が言われた「子育てしやすい」というところに繋がっていると思う。
委 員	アンケートに大学を作ってほしいという意見が出ていたが、大学を誘致するのは難しいと思うし、その他、平戸高校のことや専門科目を取り入れたらいいのではないかとかいうご意見もあった。大村の向陽高校に衛生看護科がある。平戸市内も市民病院とか生月病院とかで看護の職があるので、若い方へアンケートを取る際、看護科があったら希望するか、みたいな聞き方もできるのでは。
事務局	最初に言われた大学の件について、今、総合計画が後期計画であるが、前期計画のときに高等教育機関の誘致というところで取り組んだ経過があり、大学側ともいろいろ話した。しかし、現状で断念せざるを得なかった。どうしても今、島内はいずれも県立の高校なので、なかなかスムーズに話が進むものではない。アンケートで尋ねることはできるが、それを実現するというのは現実的には難しい。
委 員	私も高等教育界にも携わっており、その経験を踏まえると非常に難

	しいなという考えを持っている。大学の誘致は難しいと思うのは、現状では県立大学が佐世保にあるため、公立大学の誘致はまず無いと思う。できるとしたら私立大学だと思うが、平戸市に限らず人口が減少する中で私立の大学が来るかという、やっぱり難しいと思う。そう考えると、PR になるかもしれないがここから 1 時間なので、県立大学くらいなら通えない距離ではないと思う。
委 員	産婦人科がないという話だが、例えば助産師の方とか、派遣されて取り上げていくっていう感じなのか。
委 員	平戸にも助産師さんが 3 人いらっしゃるが、実際の分娩はやはりほとんど全員が医療機関である。急ぎの場合も救急車とかタクシーとか使われて、例えば佐世保などに運んで出産するという形である。
委 員	私が出産をした頃も産婦人科は平戸に無く、佐世保や佐々で出産した。あの頃は、松浦や相浦にも産婦人科があり、どこも 4・5 人お子さんがいて、どこの産婦人科にするか選んでいた状況だったが、現状産婦人科が少なくなり、病院側の受け入れが難しいということはないのか。市外の人でも、そこで産みたいですということであれば、受け入れるという形なのか。あの頃は平戸に産婦人科があればいいのという意見はあったが、産婦人科がないから子供を産むのをやめようという感じも無かった。むしろ月 1 回検診のときに佐世保に行けるのがちょっと楽しみという感じだった気がするが、現時点での受け入れ状況はどうなのか。離島の友人は産気づいてからでは難しいので、前もって入院をして計画的に出産をするということを当然のようにしていたので、緊急的な対応は難しいかも知れないが、どういう状況か。
事務局	その辺りの状況がつかめておらずきちんとした答えは難しいが、今言われたように、受け入れ側の数が多いから断られましたとかは聞いたことがない。確かに言われる通り以前は、松浦市とか佐々町へ行かれていた。生まれる人が多いからと別の病院に回されたとかは聞いた

委 員	ことはない。 最近医師会の会合や検討委員会に参加する中で、出産を佐世保でする方が増えているが、最近ホテルの構造が良くなり需要が高まっているということを聞いた。その影響として、急に前泊するときにホテルが見つからないというのが最近の悩みらしく、医師会としては緊急性があるときは、ある程度ホテルを押さえてほしいという要望が出ているようである。そうしないと、連泊できないなど微妙な調整が難しいことが顕著に起きているという話である。だからもし、行政の方でできるのであれば、急な長期滞在の面倒を見てくれる制度を作ってほしいという話が出ている。また、ホテル代が高くなったため一泊の単価を上げてほしい。最低でも 1 万円で泊まれないというところもあるため、1 万 5 千円くらいに上げてほしいという話も、現実的に都内の医師会の話の中に出た。
委 員	補足だが、2 月の入試時期にホテルを取れないということになってきている。理由として、コロナ明けでやっと人の移動ができるようになったことと、長崎で 2 月はランタンフェスティバルがあるので、その影響でないかと思う。その辺りを市として何か対応ができれば、その対策の一つになると思うのでよろしくお願いいたします。
事務局	今、そこに保健師がおり聞いたところ、検診とかについては特に問題はなくちゃんと受け入れてもらっているとのことである。出産時期の集中ということはある。だからそのときには少し調整することはあるようである。現状において、不都合とか、拒否されたとか、ここでは駄目だということはないようである。医療機関の受け入れ体制については問題ないのではないかと考えている。
(2) 第 3 期総合戦	

略の策定状況について	(資料3に沿って事務局説明)
委員	●質疑・意見等 資料の3ページ左側の枠の中に今回の概略的なものを書いてあるが、SDGsも今回から盛り込むということになっているかと思う。SDGsは今後将来的にはどこも力を入れないといけないということなので、今後の計画に積極的に取り入れていく必要があると思う。例えば、平戸市として積極的にSDGsを推進していく市であるということで売っていくような観点もあってもいいと思う。SDGsとの整合性はすごく良い取り組みであり、将来的にはどこもやらないといけない。2050年は実質排出ゼロにしないといけないということになっている。ただ一つ文章として、SDGs等の整合性等の文言が突然出てきている。表現上の問題だが、循環型社会に対応するSDGsとか、表現をちょっと考えていただけたらいいのかなと思う。デジタルの力とあるが、標準的な言い方なのか。
事務局	まずSDGsに関しては、先ほど言われたように表現の部分として1枚もので表現するという点があったので、SDGsに関するところはこの表現で止めている。本編においては、先ほど委員が言われたようなところも踏まえて明記していく。デジタルの力の部分だが、国がいわゆる地方版総合戦略を策定する際に、そこを盛り込むべき事項ということで示されたものであるから、そこを踏まえたところでこの言葉を入れている。
委員	国の方でデジタルの力という言葉を使っているということか。具体的にSDGsとの整合性というところで、今回この計画ではどういう形で盛り込まれていくのか。
事務局	例えば産業の振興の部分には、大きく方策として農林業の振興とか水産業の振興とか、観光支援・地域ブランド推進など持続可能な大きな方策がある。この方策に、それぞれどういったらSDGsの項目が該当

	するかの図を示し、整理をしていきたいと思っている。一覧をまず示して、この方策はどの取り組みに該当するのかというのを記載、さらに事業にもこれを紐づけし、自治体担当課も意識を共有しながら進めていく。各事業に対応した取り組みのロゴを、全部入れたいと思っている。今回はそのぐらいの整理になると思う。
委 員	SDGs の取り組みについて、佐世保市がだいぶ進んでいる。佐世保市の外郭団体として、地球温暖化防止推進センターエコラボというところもでき、小中高校へ啓発に行っている。そういうところで参考になると思うのでぜひ視察などして、いい計画ができればと思う。その調整は私の方でもできるので、参考にしてほしい。
委 員	26,000 人という数字はそもそも目標的なもので、現状の曲線から予想されるものということか。
事務局	昨年の3月、策定した総合計画後期基本計画で人口の将来展望を示しており、3年後のところが約 26,000 というところである。社人研の数字があるが、市独自に出した数字でここを維持したいというものである。
委 員	先ほど SDGs の話が出たが、平戸市はゼロカーボンシティ宣言をされていて、CO2 の削減、いろんな施策をされているが、産業としてそういうものも取り組んでいこうということで、この間取材させてもらった。あと木質燃料の製造など、市長が先日言われたのは、そういうものを起爆剤にしていろんな研究機関とか企業とか誘致を図っていきたいということなので、雇用などにもリンクしていると思う。新しいビジネス創造なので、それぞれの政策としてではなく連携させて取り組んでいただければと思う。
事務局	委員が言われた通り、新しいビジネスチャンスに繋がることもあるし、この計画の中に SDGs を盛り込むというのは当然整合を図るという

	ところもあり、市民、特に職員にも、意識付けをしてもらいたいということもある。
委 員	先ほどトイレに行ったが、トイレの中にエコアクションが飾られていた。少しずつでも周知をしていっているのではないかなと思う。
委 員	観光の振興で、新規のホテルをいくつか作ることについてだが、これが年間の宿泊客数とか、外国人の宿泊客数に大きく関係してくることは無いと思う。分散型宿泊施設というふうな名称だと思うが、なかなか市民にはわかりづらいと思う。市民はそうした中でやはり一定の事業者の利益だけじゃなくて、この事業がその地域にとってどういう効果があるのかというふうな細かな部分まで明記した方がわかりやすいと思う。それと、サブタイトルをつけてほしい。いいところですよとか、そういうことで呼び込む力はあると思うので、横文字だけではなかなか市民も観光客の方もわかりづらいと思う。やはり今ある既存の宿泊施設を重点的に扱っていただきたいということも合わせて、観光課と協議をしながら進めていただきたいと思う。
事務局	委員が言われたサブタイトルの件については、前回の委員会のあとに観光課と話して、具体的な話はできていないが、引き続き話をしたい。またアルベルゴの詳しい内容の記述に関してだが、総合戦略が、まず大きい方策を掲げてその中で代表とされる主な事業を二つか三つを挙げているような形になっている。今委員が言われたような点を個別事業にやるのかというと、現時点では難しいと思うが、とはいえ、やっぱり内容がわかりにくい部分もあるので、本日のご意見を踏まえて改めて内部で協議をさせていただきたい。
委 員	アルベルゴ・ディフーズタウンはなぜこれをやるかということ、あくまでも空き家対策が初めだったと思う。これは観光というよりも、商店街も含めた空き家をどうするかということで、委員会等で協議を進めていく中で、商店街の中にどれだけ空き家があり、今後若い人た

	ちができるチャレンジショップをやるときに、どこが貸してくれるとかどこが使える・使えないとかが現状全然わからない。そういう情報がないと何も進まないのに会議を重ねて、その委員としても日々モヤモヤしながら行っている。アルベルゴと空き家バンクは繋がっていて、雇用もそうだが、問題もいろんなところで繋がっている。それらをまとめるようなコーディネーター的なところが今後市役所の中で必要。デジタル化にしても DX にしても、こういった情報が欲しいといったときにそこに短時間でたどり着くような連携というのはどのように考えているのか。
事務局	今、縦割り行政になっているところも言われていると思うが、例えば、各課でいろんな政策を行うとしたとき、その前段で例えば企画課は総合計画に基づく実施計画を、毎年ヒアリングを通じてアクションプランを出す。そういったところで集約というかいわゆる情報がある程度まとめるところが企画課になるかと思う。
委 員	計画上、分けるのは仕方ないが実務的なところで横断的な連携が必要である。多分前回も委員が言われていたのではないかと思うが、横断的な連携が必要である。市民とかが市役所に何か相談して、どこに行けばいいのかそこで全てが解決完結するのかなどうか、ここに行けばもう全部解決するよというような形になってほしいというのが市民側の目線じゃないかと思う。縦割り行政で難しいところがあると思うが、横断的な連携をやっていただきたい。
委 員	アルベルゴだが、私は施策ではなく事業だと思う。施策じゃなくて、市長の肝いりなのはわかるが、私は事業だと思う。施策であれば、もう少し細かな調整が出てくると思う。
事務局	先ほどのスケジュールでもあったが、今ちょうどヒアリングというか、ざっくばらんな形で意見のやり取りをしているところである。観光課とはまだ日程調整ができていないので、委員の意見も踏まえてよ

	く協議をしていく。
委 員	KPI の産業振興で未来技術に係る研修の参加者ということで、これまでどういったことを扱ったのか。施策としても廃止という形になっているが、将来的に例えば先ほどのアンケートの結果等にもあったように、高校生や子供たちが将来住み続けたいという人は増えたものの、将来的にこの平戸市においてどういう人材ができていますよ、必要なんですよ、こういう技術を育てなきゃいけないんですよというときに、こういった専門性に進むような、方向性をつけるような、そういった点に取り組んでいく必要がある。具体的に言うと、例えば奨学金制度でそういう専門職で地元に戻ってきてもらえるならば、奨学金は返さなくていいとか、子供たちがそういう方向性で仕事に就けるような環境にすることによって、地元に戻ってくる。そういったところで産業の振興や雇用の促進とかに活かしてくれるのではないかなと思う。これまでこういった研修の参加者がどういった事業に就かれたか、本来はこれからもっと若い人たちを育成する事業をするべきと思う。
事務局	研修参加については、先進地に一緒に行って、それこそ IT 関係を学ぶという事業だったと思うが、その事業自体なくなっている状況ではある。
委 員	人を育てる事業として産業振興担当、農業振興課ばかりではなくて、そういう受け皿を作るというのが必要じゃないかと思う。
事務局	ご意見として承る。
委 員	前回の事業評価のところで、同様の話があったと思うが、確か研修参加の部分はその先がないということで終了することとなったと思うので、新たな何かを作ることも必要になってくるのかなと思う。その辺りも含めて今後計画に盛り込める部分があれば、盛り込んでいただ

	きたい。
委 員	基本目標の1番、雇用の促進のところだが、やはり平戸市は廃業する事業者が多いように感じる。そういう中でその廃業をどうするか、増やしていくことも大事だが、M&A（企業の吸収・合併）の促進っていうのも重要だと思う。どちらかというと増やしていくより維持していくということも大事だと思う。M&A も必要だと感じる。
委 員	商工会議所・商工会は、事業所と長崎県事業承継センターと連携して、今掘り起こしをやっている。跡継ぎがないならどうやっていか、M&A もあるし、一番いいのは家族が継ぐことであるが、やはりそういうことも考えられないということもある。今私が担当している案件で2件ほどある。
事務局	いわゆるその事業承継の部分については第2期の現在の総合戦略を策定するときにもこの委員会の中でお話があった。その意見等を踏まえて、この資料の3ページの2番の方の産業振興の右側のところだが、表現は持続可能な地域経済の確立ということもあったが、その辺りの意見を踏まえて追加をさせてもらった。具体的な KPI までは定めきれなかったが、一応方策というところでこの位置付けて取り組んでいきたいと思いますということでの書き込みはある。この方策は第3期でもここに書いて残していきたいと考えている。
委 員	やはり農林水産の方が多分事業承継人材が関係してくるし、全体的な部分で考えたら、先ほどから言っているように横断的にすべきである。商工だけでなく、農業とかも農業従事の事業承継というところもあると思う。横断的な対応をお願いしたい。
委 員	議題とはちょっと違うが、先日東京へ行くことがあったので有楽町にある平戸商館とアンテナショップに行ってきたが、飲食店の平戸こんねで海鮮丼を食べた。美味しくて丼一つが1200円ぐらいで食べられ

事務局	た。隣に２人組が入ってきたが、東京の人みたいでぜひ平戸に１回行ってみたいよねという話をしていた。だからこのアンテナショップはいいなと思うし、１２００円で丼が東京で食べられるというのは良かったのかなと思う。そして例えばアンテナショップのところにＵターンとかＩターンのチラシとか、そういったのも置いて、平戸を紹介するようなものを設けていただけたらと思う。 先ほどの委員のご質問の部分で、令和２年度に先進地視察ということで、農協であったり、部会であったり市からということで大分県の佐伯市の先進地視察を計画している。当時がコロナの影響等があったこの令和２年度初めその後も計画をしても中止ということで実績がなかった。そういったところの流れもあってＫＰＩとして今回は削除している。
４ 開会	(梶田財務部長あいさつ)